令和３年度（２０２１年度）
印旛地区教育研究集会
外国語研究部　提案資料

研究主題
「基礎・基本の定着を図りながら，言語活動を通して他者と積極的に関わり合う力の育成」

佐倉市立佐倉東中学校　英語研究部
ダッドマン　志里
塩﨑　珠美
酒井　陽允

１．研究主題

基礎・基本の定着を図りながら、言語活動を通して他者と積極的に関わり合う力の育成。

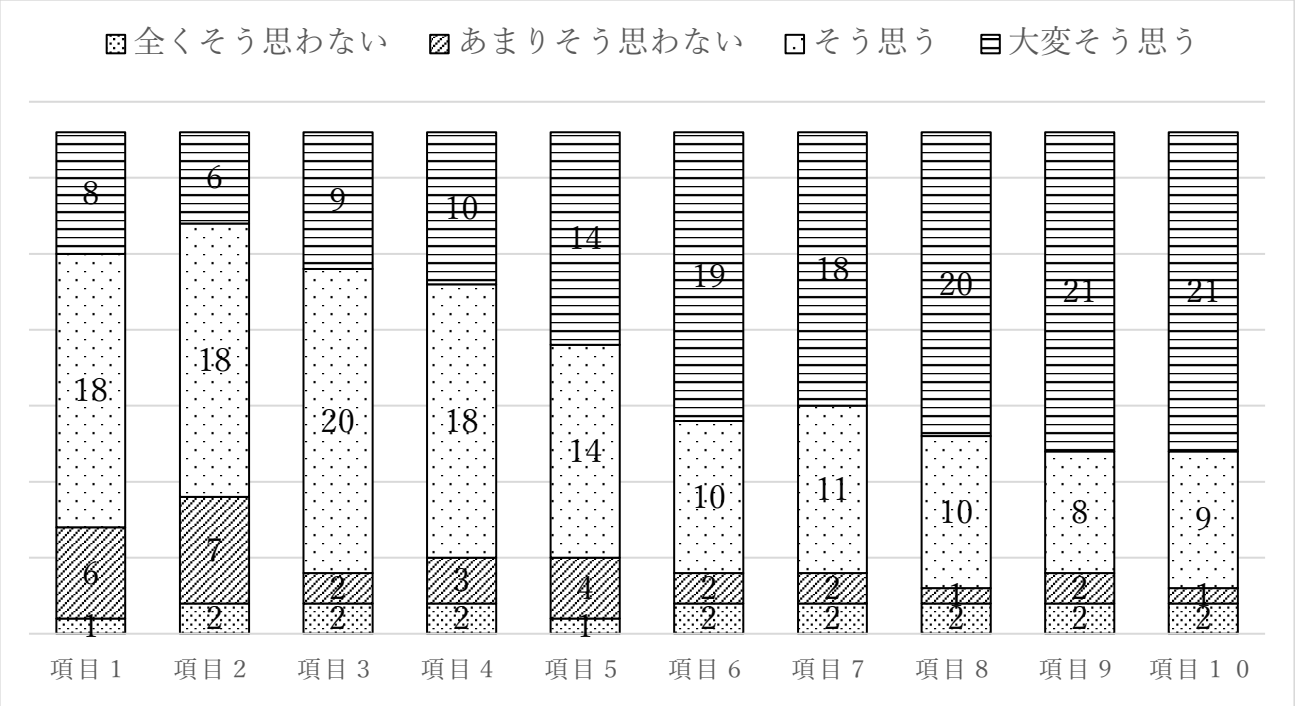
２．学校および生徒の実態

本校は佐倉市の中心部に位置し，主に佐倉市立佐倉東小学校と佐倉市立白銀小学校の２校の卒業生からなる中学校である。１，２，３学年の各学年に３学級あり，特別支援学級が２学級の合計 11 学級からなる中規模校である。「心身ともに健全で未来を築くたくましい力をもつ生徒の育成」を学校教育目標としている。目指す生徒像は，「あ：あいさつができる生徒，そ：そうじができる生徒，ぶ：部活動・習い事を頑張る生徒，べ：勉強を頑張る生徒，し：進路を切り拓く努力をする生徒」である。学校全体で主体的に物事に取り組む姿勢を育んでいる。

生徒は全般的に明るく社交的である。物怖じせず，様々な活動に取り組むことができている。また，行事に関しても，学級，学年，全校が一丸となって一生懸命に取り組む姿が見られる。学習面では，落ち着いて授業に取り組み，与えられた課題においてもほとんどの生徒が着実に行うことができる。一方で，基礎学力が身に付いていない生徒が多く見られることが課題に挙げられ，英語に苦手意識を持っている生徒が多い。本年４月に実施された佐倉市学習状況調査では，3 年生の外国語の全体正答率は 69.8%と市内の調査結果よりも 4.4%低いという結果が見られた。特に，英作文の正答率が 39%と市内の調査結果よりも 11.3%も低いという結果が見られ，自己表現を苦手とする生徒の多さが表れている。そのため，少しでも生徒の英語に対する苦手意識を払拭するために，基礎・基本の定着を図るとともに，成功体験を積ませるような場面を設定し，英語への興味・関心を高めていきたいと考えている。それと同時に，言語として英語に触れる中で，他者と積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲を高めていきたい。

そこで，生徒の英語への学習の意欲を調査するべく以下のアンケート調査を行った。

〈英語技能に関するアンケート〉対象者：現３年２組３３名　　実施時期：令和３年７月



項目１：以前よりも，英語で相手と会話することができるようになったと思う。
項目２：以前よりも，英語で自分の考えや正しい情報を発表することができるようになったと思う。
項目３：以前よりも，英語で自分の考えや書きたいことを書くことができるようになったと思う。
項目４：以前よりも，英語で話される内容を適切に聞きとることができるようになったと思う。
項目５：以前よりも，英語で書かれた内容を適切に読みとることができるようになったと思う。
項目６：今後，英語で相手と会話することができるようになりたいと思う。
項目７：今後，英語で自分の考えや正しい情報を発表することができるようになりたいと思う。
項目８：今後，英語で自分の考えや書きたいことを書くことができるようになりたいと思う。
項目９：今後，英語で話される内容を適切に聞きとることができるようになりたいと思う。
項目 10：今後，英語で書かれた内容を適切に読み取ることができるようになりたいと思う。

〈アンケートの結果を受けて〉

全ての項目で前向きな回答が見られた。６～１０の項目において，肯定的な回答が多い一方で，１～５の項目では肯定的な回答が少なかった。よって，英語の技能習得には意欲的であるが，自分の英語技能に自信が無い生徒が多いことがわかった。そこで，自分の身近なことについて伝えることを題材に設定することで，自信を持って言語活動に参加できると考えた。

３．主題設定の理由

学習指導要領の改訂に伴い，「やりとり」や「即興性」を意識したコミュニケーション能力の育成が英語科の指導に求められている。英語科の目標を，「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す」と設定している。しかし，改訂の趣旨にあるように，外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取り組み，特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや「やりとり」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと，読んだことについて意見を述べ合うなど，複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないことなどの課題がある。そのため，生徒は学年が上がり，幅広い表現や語彙が要求されたり，話をする対象の人数が多くなってきたりすると，間違いを恐れるあまり，英語を使ってコミュニケーションを図ることに抵抗を感じるようになってしまうのが現状である。言語活動の基盤となる基礎知識を定着るために，まずは定型文を用いた言語活動をすることで，英語を用いて会話する意欲を育んでいくことができるはずである。そして，生徒が表現しやすい身近な話題を設定するなどの工夫をしていきたい。これらを踏まえ，語彙・文法や人数の壁を取り除き，「生徒にとって身近な話題について，既習の語彙や文法事項から，いかに簡単な表現を用いて相手に伝えるか」ということを念頭に置いた授業づくりをしていくことで，生徒が進んで英語を使ったやりとりをするようになると考える。以上のことから本主題を設定した。

４．研究仮説

仮説１　表現活動のテーマを身近な話題に設定することで，生徒の活動に対する意欲を高めるとともに，即興的な対話力を身に付けることにつながるであろう。

仮説２　単語や日常の会話に使える定型文に多く触れさせることで，対話に必要な知識・技能を身に着け，積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が育成されるであろう。

５．研究の内容

（１）仮説１：検証のための実践

ア　帯活動での活動【話すこと・聞くこと・書くこと】

既習事項を用いて，自分のことや身近な話題についてわかりやすく相手に伝える。

・１年生は「Q&A ワークシート」を用いて，ペアで質疑応答を行った。与えられた質問に対して，自分自身の答えを２文以上で書き，毎時間ペアで５問ずつ質疑応答を繰り返し行った。その後，質問の一部を変えることで，さまざまな質疑応答を行った。夏季休業明けには，ALT とのスピーキングテストを予定している。

・２年生は「すらすら英会話」を通して，既習の文法事項を含んだ身近な話題についての文を繰り返しペアで練習した。

・３年生は「Small Talk」を通して，授業の開始時の１分間，身近な話題についてお互いに英語で話し合い，その後，聞き取れた内容を用紙に書き出した。

①　１年生　Q&A
②　２年生　すらすら英会話
③　３年生　Small Talk

イ　Speech の活動【書くこと・話すこと】

既習事項を用いて，目標を設定し，全体の前でスピーチの発表を行った。

・１年生　「お気に入りの人物について紹介しよう」

１．マッピングを用いて，紹介したい人物の情報を整理する。
２．Q&A シートを用いて，紹介したい人物について質疑応答をする。
３．原稿に書きたいことを整理する。
４．４人グループでスピーチの発表を行う。良かった部分と改善点を伝え合う。
５．全体の前で，プロジェクターに写真を映し出し，発表を行う。
６．「振り返りシート」を用いて，自己評価・他己評価を行う。

・２年生　「お気に入りのものについて紹介しよう」

１．Show & Tell のモデルになる海外の子どもの映像を見せたり，教師や ALT が実際に行って見せたりした。
２．Q&A やマッピングを通して，自分の考えを整理する。

３．原稿を作成する。
４．グループで原稿の回し読みを行う。アドバイスや参考にしたい箇所などを付箋に書いて伝え合う。
５．付箋に書いてもらったことや友達の原稿を参考にして，原稿を直してからグループ内でShow & Tellの発表を行う。
６．全体の前で発表を行う。

・３年生　「CMをつくって発表しよう」
１．自分が生活の中で困っていることを整理し，それを解決してくれる商品を想像し，その商品を宣伝する文を作成する。
２．おすすめの商品の絵と原稿を作成する。
３．グループで発表し，グループのメンバーの発表の良いところを書き，代表者を選ぶ。
４．代表者の発表を聞き，感想を書く。さらに，自己評価も行う。

〇全学年共通　Show & Tell

ウ　Speaking Test【話すこと】

ALTと１対１で行うスピーキングテストや１人あたり３分程度での会話形式のテストについては，昨年度は全学年共通で実施した。今年度も後期に実施を予定している。

（２）仮説２：検証のための実践

ア　帯活動での活動【話すこと・聞くこと・書くこと】

全学年共通で，ビンゴを帯活動として行い，多くの英単語を書いたり，聞き取ったりする機会を設けた。

イ　学習ノートの活用【書くこと】

全学年共通で，学習ノートの活用を行った。学年の実態によって，提出する頻度や内容は異なる。

・１年生は，予習・復習としてビンゴの単語を練習したり，習った会話表現を練習したりした。提出頻度としては，週に１回とし，練習した分だけ提出させている。
・２年生は，毎時間，単語・語句テストを行っているため，授業前にテストの予習の為にノートを使う生徒が多い。また，基礎・基本の定着が必要な生徒は単語練習を行い，単語の知識が身に付いている生徒は基本文の練習を行ったり，重要語句を用いて疑問文を作ったりと，各自の到達目標に応じた学習をするように声掛けを行っている。ページ数は指定せず，毎時間提出させている。
・３年生は，基本的な単語や定型文の練習，問題演習を行う生徒が多かった。毎週２ページ学習して提出とした。

ウ　言語活動【話すこと】

全学年共通で会話表現に多く触れる活動を行った。例えば，ALT が提供する Activity を通して，新しい文法を用いた表現を練習したり，Calabo Language を活用し，さまざまな例文に繰り返し触れ，口頭練習を行ったりした。その活動を通して，正しい発音を身に付けることで，英語を使う自信に繋がった。

６．研究の成果と課題

（１）仮説１

〇より身近な話題をテーマにすることで，生徒は意欲的に活動に参加し，相手に自分の考えを伝えたいという気持ちを持たせることができた。

〇生徒がお互いの発表を聞き合うことで，自らの発表を振り返り，次の発表活動（自らの学び）に繋げる機会が持つことができた。

〇全体での発表の前に，グループでの回し読みや発表の練習をすることで，全体での発表に自信を持って取り組むことができた。

〇ALT との日常会話や授業中のやりとりでは，物怖じすることなく英語を使って話をする生徒が以前よりも見られるようになった。

〇2 年生は ALT や JTE の英語でのとっさの指示や説明を正しく理解し，スムーズに言語活動に取り組めるようになった。

▲生徒の実態として，英語で表現活動を行う以前に，日本語でさえも自分の考えを表現することを苦手とする生徒が多い。そのため，英語での表現活動に対して，さらに困難であると感じる生徒に対する指導の工夫が必要であると感じた。

▲「即興的」という点では，現時点では達成度は低い。しかしながら，卒業までに身に付けられるようにという長期目標を持ち，今後も定期的に Show & Tell などの発表活動を取り入れていく。

（２）仮説２

〇帯活動では多くの単語に触れたり，定型文を繰り返し練習し，身近な会話表現に触れたりすることで，会話の中で既習の語句を積極的に使おうとする姿勢が見られた。

〇ビンゴはテンポが良い活動なので，生徒たちも毎時間楽しんで活動することができた。

〇どの単語を練習したらよいかわからない生徒たちにとって，ビンゴでは毎回４０個の単語が示されるため，どの単語を練習したらよいかわからない生徒たちにとっては練習する単語が明確となり，主体的に練習することができた。

〇各自の到達目標に合わせた学習をするように促すことで，学習ノートを有効的に使用し，基礎・基本の定着に繋がった。

▲語句や文法の正確さにこだわりすぎるあまり，間違いを恐れ，英語を話すことに対して委縮してしまう生徒も見られた。

▲学習ノートの活用については，ただ単語を書いているだけで，単語の定着があまり図れなかった。

（３）まとめとして

学習指導要領の改訂に伴い，「やりとり」や「即興性」を意識したコミュニケーション能力の育成が求められているため，本校の研究主題を「基礎・基本の定着を図りながら、言語活動を通して他者と積極的に関わり合う力の育成」と設定した。

しかしながら，本校の生徒の実態として，英語に対する苦手意識が強く，「即興的なやりとり」はレベルがかなり高いものであると考えられた。そのため，最終目標を達成するために，さまざまな活動を行ってきた。

スピーチ活動においては，身近な話題や自分の興味・関心のあることに関して伝えることで，生徒たちは意欲的に学習に取り組んでいた。即興でスピーチをすることが難しいため，マッピングやQ&Aを取り入れることで，情報を整理したり，タブレットを使うことで視覚情報を得たり，発音の確認が容易にできたりすることで，苦手意識をそれほど感じることなく，活動することができた。また，発表の場面では，モデルのスピーチを聞き，その後，小グループでスピーチを見せ合い，最終的には全体の前で発表するという段階を経た。

さらに，語彙力の増強や基本的な語句の定着を図るために，帯活動として行ってきたビンゴ，ALTとのやりとりやCalabo Languageは，生徒にとって気負うことなく４技能を身に付けるためのツールである。そこにゲーム的要素が含まれていることで，楽しく学ぶことができた。また，それに併せて学習ノートを活用することで，聞いた単語の意味が理解できるようになったり，小テストや定期テストの単語を以前より書けたりすることで，英語の学習意欲の向上に繋がってきている。

昨年度からは，さまざまな制約があり，十分な言語活動が授業で行えているとは考えにくいのが現状である。日々の授業を進めることに追われ，本研究では検証が十分に行うことができず，生徒の変容が見られるようなエビデンスを残すことができなかった。今後，状況が落ち着いてきたときには，意識的に生徒の変容が見られるようなデータの収集を行い，課題を明確にしていく必要を感じた。

加えて，「即興的なやりとり」を行い，「基礎・基本の定着を図りながら、言語活動を通して他者と積極的に関わり合う力の育成」という研究主題を達成するために，今後も生徒の興味・関心を引き出すようなさまざまな活動を継続していきたい。そして，卒業後も見据え，自分の考えをしっかりと持ち，相手に伝えられる喜びを感じられる生徒の育成に繋げられるような指導の工夫をしていきたい。